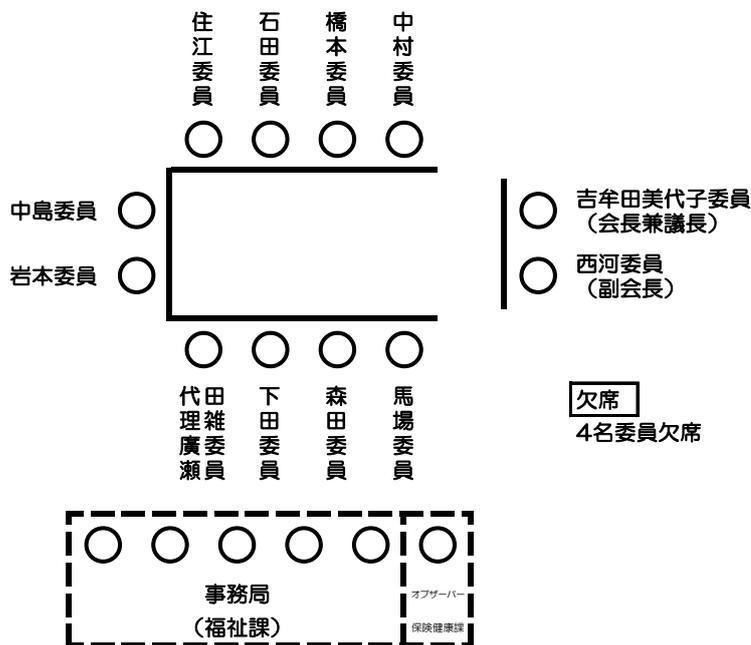


平成28年度 第2回 鹿島市子ども子育て会議 議事録

日時：平成29年3月9日（木）15:00～

場所：市第2庁舎 新世紀センター2階 会議室



1. 開会

事務局 吉牟田より

2. あいさつ

事務局長（福祉課長）代理 吉牟田より

鹿島市子ども子育て支援事業計画を策定して2年が経過。内容を今一度確認するため、本会議の場で点検・評価をすることとなっている。鹿島市では子育て支援として約2年半前に子ども子育て支援センターを開設。センターでは「ひろば」のつどいを実施し、また出産を控えている妊婦の方との相談、市内の中学校に出向き「赤ちゃん登校日」を開催、また障がいを持たれている子どもさんの戸別訪問を行うなど活動を行っている。

また来年度、鹿島市においてもファミリーサポートセンター事業を実施する予定。事業内容としては援助を行ってほしい者と援助をする者とのマッチングで成り立つ有償ボランティアになっている。委員の皆様においても援助が出来る会員になって頂ければと思うところである。本会議で様々な意見が出され、より良い子育て会議になればと思う。

事務局 吉牟田： ここで協議に入る前に出席して頂いてる委員を紹介。

（上座の方から）吉牟田美代子委員、西河信也委員、中村義彦委員…

前回の会議に続いて、会長を吉牟田美代子委員、副会長を西河信也委員にお願いしたい。

また鹿島市子ども子育て会議条例第5条で会長が議長となるとなっているので、これからの進行は吉牟田委員（議長）にお願いしたい。

3. 協議 進行：吉牟田美代子会長

(1) 前回の会議から出た意見に対する今後の対応策について ……資料1

事務局 片渕：～ 資料1についての説明 ～

吉牟田会長：先ほどの説明および資料について質疑等はないか……。延長保育利用をされる際に、園によっては「タイムカード」の管理をされているところがあるようだが、市内には何園ほどあるのか。

事務局 片渕：施設数の把握はしてないが、100名を越える園については導入していると伺っている。

森田委員：乳児全戸訪問事業について、メディアを通じて5人に1人が産後うつになる傾向があり、それを受けて他市においては産後2週間後に訪問することも行っていると聞いた。

馬場委員：家庭相談員の立場として、問題のある家庭、例えば子どもの体重が思う以上に増えないケースなどは保健センターと連携し、産後うつの兆候が見られたら、子育て支援センターの方にも繋げたりして情報共有に努めている。

(2) 平成28年度教育・保育施設及び地域子ども子育て支援事業の提供体制について ……資料2

※一時預かり事業、延長保育事業は次回の会議で報告。
実費徴収に係る補足給付を行う事業、多様な主体が本制度に参入することを促進するための事業は実施が無かったため割愛。

事務局 片渕：「教育・保育施設の提供体制の確保及び地域子ども子育て支援事業の提供体制の確保の考え方について」について説明

吉牟田会長：先ほどの説明および資料について質疑等はないか

～ 質疑・意見等無し ～

事務局 片渕：「地域子ども・子育て支援事業の提供体制」中
・利用者支援事業
・地域子育て支援拠点事業（子育て支援センター）について説明

吉牟田会長：先ほどの説明および資料について質疑等はないか……。利用者支援事業で実績で41件の相談対応を行っているとの事。子育て支援拠点事業の相談内容と区別把握しているのか？

委員代理 廣瀬：利用者支援事業における相談については主には教育・保育施設の利用および情報提供するにあたって助言等を行っている。また、地域子育て支援拠点事業における相談は子育て全般に掛かる相談を受けているところ。

森田委員：以前は各地区公民館が検診など子育てのコミュニティ的な場所として位置づけられ情報把握ができていたが、現在子育て支援センター・保健センターが核となり市内でも遠方に居住されている方にとっては距離もあるので利用が難しいのでは？と懸念する。

委員代理 廣瀬 : 先ほどの意見に対する具体的な対策は今のところ無い。
ただ、障がい児訪問として月1回にこちらから出向いて戸別訪問をしている。

事務局 片渕 : 「地域子ども・子育て支援事業の提供体制」中
・妊婦健康診査
・乳児家庭全戸訪問事業
・養育支援訪問事業 について説明

吉牟田会長 : 先ほどの説明および資料について質疑等はないか

～ 質疑・意見等無し ～

吉牟田会長 : 話題として。
養育支援訪問事業中の「切れ目の無い流れ」はとても大事。
妊婦さん同士が集まり、お腹の子どもに話しかけながら、自分の心も安定させていく。そして出産後も「赤ちゃんひろば」に集い、その後も保育園に預けるまでに子育て支援センターのひろばに集う。こういう一連の流れは「マタニティブルー」というハードルを一緒に越える（決して孤立にならない）という一定の成果も見られる。こうした切れ目の無い流れや外からの支援はとても大事なことである。

事務局 片渕 : 「地域子ども・子育て支援事業の提供体制」中
・子育て援助活動支援事業（ファミリーサポートセンター）
・病児・病後児保育事業 について説明

吉牟田会長 : 先ほどの説明および資料について質疑等はないか

～ 質疑・意見等無し ～

事務局 片渕 : 「地域子ども・子育て支援事業の提供体制」中
・放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ） について説明

中村委員 : 明倫小学校について待機児童が20名ほどいると聞くと、どう対応していくのか？また、クラブの中では思うように遊べない児童がストレスを抱えているのではないかと懸念するが、今後施設整備の面で進めていくものがあれば教示してもらいたい。

事務局 岸川 : 来年度、古枝小学校敷地内において新しく建設する予定。
今後も施設の老朽化により整備が必要になってくるものが出てくるので計画的に考えていく。
また、児童が外遊びの際にストレスを抱えないよう、配慮しなければならないと感じる。

中村委員 : 学校側とクラブの支援員との情報交換会の場では様々な意見が出されるが思うように進まず、ある時は不満として行政側（福祉課）に矛先が向けられている様子。長年現場に勤めている支援員と行政側との温度差を感じるようであり、回答も返ってこないこともあると聞く。

森田委員 : 教育委員会と福祉課がうまく交わらないため、そういう現象が起こっているのではと思う。

事務局 岸川 : 月一回、連絡会と題した研修会を開催し、支援員との情報交換のほか、講師を招聘し質の向上を図っている。
また福祉課―市教育委員会でも情報交換を行い、連携を図っている。支援員―学校側でも預かる児童の情報交換会を行っている。

森田委員 : クラブに預ける保護者の横の繋がりも大事だと思う。
児童を介して様々な情報が入ってくると思われるので。

馬場委員 : 児童によっては学校では見せない姿をクラブの支援員に見せるため、支援員を通じて現場の情報が得られる。気苦労は耐えないと思われるが今後も行政―学校―支援員との連携を図っていかねばならないと思う。

中村委員 : 資料1で支援員の募集を掛けているようだが、未だ不足しているのか。

事務局 岸川 : 通常勤務に当たられている支援員の確保は出来ている。しかし急遽休みになったりした場合の補充員として募集を掛けている。

(3) 平成28年度教育・保育施設および放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）の利用状況について ・・・資料3

事務局 片淵 : ～ 資料3についての説明 ～

吉牟田会長 : 市外保育所利用の背景を伺いたい。

事務局 吉牟田 : 現在のところ市外の保育所利用所数は16箇所。
片淵 保護者の方が市外に勤務され、近いところに預ける傾向がある。
もちろん、市外在住の方が鹿島市内の保育所を利用するパターンもある。

(4) その他

事務局 片淵 : 委員の任期が2年となっているため、次年度は改選の時期になる。各分野から再度委員選出の打診をさせてもらうので配慮して頂きたい。

吉牟田会長、西河副会長は降壇。

4. 閉会